

事業報告書

平成 28 年度

自 平成 28 年 4 月 1 日

至 平成 29 年 3 月 31 日

地方独立行政法人佐世保市総合医療センター

目次

地方独立行政法人佐世保市総合医療センターの概要

1 現況	3
① 法人名	3
② 所在地	3
③ 役員の状況	3
④ 設置・運営する病院	3
⑤ 職員数	3
2 基本的な目標	3

「全体的な状況」

1 法人の総括	5
2 大項目ごとの特記事項	5
(1) 住民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する目標を達成するための取組	5
(2) 業務運営の改善及び効率化に関する目標を達成するための取組	5
(3) 財務内容の改善に関する目標を達成するための取組	5

「項目別の状況」

第2 住民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する事項	5
1 地域完結型医療の推進	5
2 提供する医療サービスの充実	6
(1) 救急医療	6
(2) がん医療	7
(3) 小児・周産期医療	7
(4) 高度専門医療	8
(5) 政策医療	8
3 医療人育成体制の充実	9
(1) 医師の研修制度の充実	9
(2) 看護師・薬剤師をはじめとする医療従事者の育成の充実	10
4 医学研究の推進	12
5 医療の質の向上	12
(1) 施設、設備の充実	12
(2) 医療従事者の確保	12
(3) 患者サービスの向上	13
(4) 安全性の高い信頼される医療	14
(5) 臨床指標の充実及び開示	15

第3 業務運営の改善及び効率化に関する目標を達成するためとるべき措置	15
1 法人としての管理運営体制の確立	15
(1) 適正な法人管理体制の構築	15
(2) 効率的な病院運営	15
2 人材の確保と育成	15
第4 財務内容の改善に関する目標を達成するためとるべき措置	15
1 経営基盤の確立	15
2 収益と費用の適正化	15
(1) 収益の適正化	15
(2) 費用の適正化	16
第5 その他業務運営に関する重要事項	17
1 救急ワークステーションの充実	17
2 ボランティア制度の活用	17
3 分かりやすい情報発信	17
第6 予算（人件費見積もりを含む。）、収支計画及び資金計画	18
1 予算	18
2 収支計画	19
3 資金計画	20
第7 短期借入金の限度額	20
第8 出資等に係る不要財産又は出資等に係る不要財産となることが見込まれる財産がある場合には、当該財産の処分に関する計画	20
第9 重要な財産を譲渡し又は担保に供する計画	20
第10 剰余金の使途	20
第11 その他佐世保市地方独立行政法人法の施行に関する規則で定める事項	21
1 人事に関する計画	21
2 施設及び設備に関する計画	21
3 法第40条4項の規定により業務の財源に充てることができる積立金の処分に関する計画	21

地方独立行政法人佐世保市総合医療センター事業報告書

「地方独立行政法人佐世保市総合医療センターの概要」

1 現況

(1) 法人名

地方独立行政法人佐世保市総合医療センター

(2) 所在地

佐世保市平瀬町9番地3

(3) 役員状況(平成28年4月1日現在)

役職名	氏名	備考
理事長	澄川 耕二	病院長
副理事長	赤瀬 隆彦	専務理事
副理事長	石川 啓	副院長
理事	早田 宏	副院長
理事	緒方 信子	副院長兼看護部長
理事	久保 次郎	佐世保市医師会会長
理事	前田 一郎	佐世保商工会議所会頭
理事	調 漸	長崎大学副学長
理事	立石 憲彦	長崎県立大学看護学科教授
監事	西村 浩太郎	税理士
監事	渡会 祐二	弁護士

(4) 設置・運営する病院

別表のとおり

(5) 職員数(平成29年3月31日現在)

756人(正職員)

2 基本的な目標

「地域の基幹病院として高度な医療を総合的に提供するとともに明日を担う医療人を育成する」という理念のもと救急医療、がん医療、小児・周産期医療、高度専門医療、政策医療を医療の5本柱とし、地域医療機関との連携及び役割分担のもとで、地域の医療の質の向上に寄与していく。地方独立行政法人制度の特徴を生かし、最大限の努力による住民・患者へのサービスの向上と効率的な病院運営を行う。

別表

病院名	佐世保市総合医療センター	
所在地	〒857-8511 長崎県佐世保市平瀬町 9 番地 3	
設 立	平成 28 年 4 月 1 日	
病床数	総数 594 床（一般病床 570 床、結核病床 20 床、感染症病床 4 床）	
診療科目 (31 科)	内科、呼吸器内科、消化器内科、循環器内科、神経内科、血液内科、腎臓内科、糖尿病・内分泌内科、リウマチ科、緩和ケア内科、小児科、外科、呼吸器外科、消化器外科、乳腺外科、整形外科、皮膚科、泌尿器科、産婦人科、眼科、耳鼻いんこう科、放射線科、歯科、麻酔科、リハビリテーション科、形成外科、脳神経外科、心臓血管外科、救急集中治療科、病理診断科、臨床検査科	
離島診療所	宇久診療所、黒島診療所、高島診療所	
主な役割と機能	佐世保県北医療圏における基幹病院 ●救命救急センター ●臨床研修指定病院 ●救急告示病院 ●地域医療支援病院 ●地域がん診療連携拠点病院 ●地域周産期母子医療センター ●災害拠点病院 ●高次脳卒中センター ●エイズ治療拠点病院 ●病院機能評価（公益財団法人日本医療機能評価機構）V6.0 ●各学会認定研修病院	
敷地面積	【病院施設】 (本院) 22,894.35 m ² (宇久) 1,918 m ² (高島) 239.27 m ²	【公宅関係】 (本院) 7,584.77 m ² (宇久) 740.00 m ² (黒島) 105.00 m ²
建物規模	【病院関係】 (本院) 36,925.36 m ² (宇久) 1,406.51 m ² (高島) 100.75 m ²	【公宅関係】 (本院) 5,999.67 m ² (宇久) 258.10 m ² (黒島) 69.56 m ²

「全体的な状況」

1 法人の統括

法人初年度となる平成 28 年度は理事会を計画的に開催し、迅速な意思決定を行うことで円滑な運営に努めた。地方独立行政法人佐世保市総合医療センターの役割として、地域医療機関との役割分担・連携のもと、救急医療、小児・周産期医療、感染症医療、離島医療に取り組んだ。専門性の高い医療の充実として、内視鏡センター棟の建設に取り組み、平成 29 年 4 月から運用を開始した。患者・住民に提供するサービスの向上としては、医療費のクレジットカード支払方法を導入し患者の利便性向上に取り組んだ。また、病院ボランティアを積極的に募集し、6 名を確保したことにより患者目線に立ったサービス提供することができた。医療の質及び安全性の確保としては、法令・行動規範を遵守し、医療安全対策及び院内感染防止の研修を行った。経営に対する取組みとしては、SPD を導入し、コスト削減に取り組んだ。この一年間は、職員一丸となって年度計画達成に向けた取組みを進めることができた。

2 大項目ごとの特記事項

(1) 住民に対して提供するサービス及びその他の業務の質の向上に関する目標を達成するための取組み

地域完結型医療の推進については、地域のかかりつけ医や病院等との連携を推進し、紹介率・逆紹介率ともに 10%以上目標値を上回る結果となった。救急医療においても救急車やドクターヘリ以外での来院患者数は減少傾向にあり一次・二次医療機関との役割分担・連携が出来ている。政策医療である離島医療においては、2 つの診療所において医師の中途退職・早期退職があり、医師の応援体制を維持しつつ医師の確保に取り組み平成 29 年度からの新規医師の確保が出来た。高度専門医療においては、内視鏡センター開設に向け取り組み、電子内視鏡システムの導入など医療機器の購入や専門スタッフの確保ができ予定どおり平成 29 年 4 月からの運用開始をできた。

(2) 業務運営の改善及び効率化に関する目標を達成するための取組み

法人 1 年目は、法人運営の確立へ向けた取組みとして、院内での意思決定機関である経営戦略会議及び経営会議等の開催を定期的で開催し、病院運営が効率的に実施できる体制づくりに取り組んだ。高額医療機器の購入や人員の確保等に対して、迅速に意思決定し、予算を執行することができた。

(3) 財務内容の改善に関する事項への取組み

今年度は、コスト削減の取組みとして、SPD の導入などに取り組んだ。各事項において、経営の分析を行い、収支のバランスがきちんと取れているのか検討をすることができた。地方独立行政法人として、予算に対しての柔軟性をもちつつ、的確な経営判断をし、必要な事業の展開は実施できた。

「項目別の状況」

第 2 住民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する目標を達成するためとるべき措置

1 地域完結型医療の推進

紹介率・逆紹介率など目標値及び前年実績を上回ることが出来た。かかりつけ医等からの紹介患者さんの受入や当院からかかりつけ医等への逆紹介を積極的に努め、地域の医療機関、介護福祉施設、行政等との連携を図ることがで

きた。また、地域を担う医療従事者を対象とした研修会を定期的を実施し、目標値の 9 割を超す参加者を集めることができ、地域の医療の質の向上に努めることができた。

紹介率等連携推進関係	平成 27 年度 実績値	平成 28 年度 目標値	平成 28 年度 実績値	目標値差
				前年度差
紹介率 (%)	89.4	80 以上	91.7	11.7
【地域医療支援病院要件 65%以上】				2.3
逆紹介率 (%)	75.6	70 以上	85.1	15.1
【地域医療支援病院要件 40%以上】				9.5
あじさいネットカルテ閲覧件数 (件)	2,114	2,200	2,266	66
				152

地域医療従事者対象の研修会	平成 27 年度 実績値	平成 28 年度 目標値	平成 28 年度 実績値	目標値差
				前年度差
①地域医療研修会 (回数 (回)・人数 (人))	(13) 518	(12) 500	(15) 613	(3) 113
				(2) 95
②救命救急研修会 (回数 (回)・人数 (人))	(6) 326	(6) 400	(5) 219	(-1) -181
				(-1) -107
③がん関係研修会 (回数 (回)・人数 (人))	(7) 165	(6) 120	(5) 113	(-1) -7
				(-2) -52
④～③の合計【地域医療支援病院要件年 12 回以上の開催】	(26) 1,009	(24) 1,020	(25) 945	(1) -75
				(-1) -64
地域連携診療計画会議 (回数 (回)・人数 (人))	(3) 139	(3) 150	(6) 198	(59) 48
				(59) 59

2 提供する医療サービスの充実

(1) 救急医療

地域の一次・二次医療機関との役割分担・連携ができてきており、救急車・ドクターヘリにより搬送される患者さんの受入数は年々増加し、それ以外での患者受入数が減少してきており、より重篤な患者さんの受入を行うことができた。また、佐世保市消防局との合同研修会を定期的を実施することにより、救急搬送時の連携強化を図ることもできた。

救命救急患者搬送件数	平成 27 年度 実績値	平成 28 年度 目標値	平成 28 年度 実績値	目標値差
				前年度差
救急車・ヘリ搬送【受入】件数 (件)	3,089	3,000	3,385	385
【救命救急センター要件 救急搬送受入数年 1000 回以上】				296
救急車・ヘリ搬送【入院】件数 (件)	2,045	2,000	2,220	220
				175
救急車・ヘリ搬送以外の救急患者【受入】件数 (件)	5,628	5,800	5,256	-544
				-372
救急車・ヘリ搬送以外の救急患者【入院】件数 (件)	1,311	1,400	1,157	-243
				-154

(2) がん医療

がん診療については、地域がん診療拠点病院の役割として、手術・化学療法・放射線治療を組み合わせた集学的治療（1,302 件のがん手術、8,769 件の放射線治療、3,347 件の化学療法）を実施できた。また、緩和ケアについての基本的な知識を習得するための研修会を実施し、前年度実績、目標値を上回る修了者数となり、がんと診断された時から適切に緩和ケアが提供される体制整備を図ることができた。

がん関係件数 ※がんに関する数値は、年単位で記載	平成 27 年 実績値	平成 28 年 目標値	平成 28 年 実績値	目標値差
				前年度差
がん入院患者数（実人員）（人）	3,759	3,500	3,582	82
				-177
悪性腫瘍手術件数（件）	1,281	1,200	1,302	102
				21
外来化学療法件数（件）	3,209	3,100	3,347	247
				138
放射線治療法件数（件）	7,599	8,300	8,769	469
				1,170
がん相談件数（件）	1,449	1,400	1,827	427
				378
院内がん登録件数（件）	1,839	1,800	1,891	91
				52

地域がん診療連携拠点病院指定要件の達成

緩和ケア研修 院内研修修了者割合の達成	平成 27 年度 実績値	平成 28 年度 目標値	平成 28 年度 実績値	目標値差
				前年度差
がん診療において、がん患者の主治医や担当医となる 医師（％）	86.9	87 以上	93.2	6.2
				6.3
初期臨床研修 2 年目から初期臨床研修終了後 3 年 目までの医師（％）	60	65	78.5	13.5
				18.5

(3) 小児・周産期医療

周産期医療については、異常分娩の件数が年々増加しており、地域の産科医と連携することで、リスクの高い妊娠・出産に対応することができた。小児医療では、佐世保市消防局と小児の救急搬送についての症例検討会を行う等、地域の周産期・小児医療への貢献ができた。

小児・周産期医療関係	平成 27 年度 実績値	平成 28 年度 目標値	平成 28 年度 実績値	目標値差
				前年度差
正常分娩件数 (件)	29	40	34	-6 5
異常分娩件数 (件)	325	300	335	35 10
NICU 病床稼働率 (%)	98.5	95.0	96.4	1.4 -2.1
GCU 病床稼働率 (%)	61.6	70.0	64.2	-5.8 2.6
小児病棟病床稼働率 (%)	63.2	65.0	64.7	-0.3 1.5

(4) 高度専門医療

手術、全身麻酔件数、MRI 件数等は、目標値、前年実績値を上回る実施となり、高度な専門的医療の提供をすることができた。内視鏡検査・処置件数については、年度末に新内視鏡センター移転に伴う調整もあり目標値には届かなかったものの前年実績を大幅に伸ばすことが出来た。

また、高度な専門的医療を提供し続けるために、平成 29 年度内視鏡センター開設へ向けて、今年度は、電子内視システムなどの先進的機能を持つ医療機器の購入や内視鏡センターの専門スタッフ（臨床工学技士等）の確保に取り組んだ。

手術・検査・処置件数等	平成 27 年度 実績値	平成 28 年度 目標値	平成 28 年度 実績値	目標値差
				前年度差
手術件数 (件)	4,550	4,500	4,866	366 316
全身麻酔件数 (件)	2,307	2,300	2,452	152 145
MRI 撮影件数 (件)	5,407	5,000	5,739	739 332
CT 撮影件数 (件)	23,732	23,000	24,748	1,748 1,016
内視鏡検査・処置件数 (件)	4,911	6,000	5,612	-388 701
血管造影件数 (件)	2,096	2,500	2,085	-415 -11
人工透析件数 (件)	4,479	4,200	4,369	169 -110

(5) 政策医療

(離島医療に関する事項)

- 1) 宇久診療所 (一般 11 床・療養 6 床)

・17 床の有床診療所であることから、安心して安全な医療提供体制を維持するため、更新計画に基づき、施設整備（医療ガス設備整備等）や医療機器（医用画像情報システム 9,266 千円、ナースコール装置 4,428 千円）などの整備を行った。

2) 黒島診療所

・平成 28 年 7 月から常勤医師が不在となったものの、地域病院及び本院医師の派遣により対応した。医師確保のため、公宅周辺の施設環境整備を行った。

・外来患者延数 1,979 人 収入 4,955 千円・支出 4,354 千円（不足差なし）

3) 高島診療所

・黒島診療所と同様に、常勤医師不在の対応を行った。

・外来患者延数 293 人 収入 33,055 千円・支出 47,139 千円（収支不足 14,084 千円）

（結核病棟運営に関する事項）

・結核病棟運営による不採算経費 96,039 千円

（感染症医療に関する事項）

・第 2 種感染症病床（4 床）の受入体制を確保した。

・感染症医療による不採算経費 34,543 千円

（災害医療に関する事項）

・市の防災訓練や原子力艦原子力防災訓練に参加するなど災害医療体制の確保を図った。

離島・結核病棟患者数	平成 27 年度	平成 28 年度	平成 28 年度	目標値差
	実績値	目標値	実績値	前年度差
宇久【入院】患者数（人）	2,913	2,600	3,650	1,050 737
宇久【外来】患者数（人）	19,947	20,000	20,264	264 317
黒島【外来】患者数（人）	2,391	2,300	1,979	-321 -412
高島【外来】患者数（人）	342	300	293	-7 -49
結核病棟【入院】患者数（人）	1,031	1,500	774	-726 -257

3 医療人育成体制の充実

(1) 医師の研修制度の充実

医学生実習及び臨床研修実習受入数においては、年度計画を上回る実績となっており、専門医育成及び研修会の開催においても概ね計画通りの実施が来ている。

① 学生教育の充実

学生の教育の充実のため、平成 28 年度に受入学生数は、32 名と昨年実績及び目標値を大幅にクリアしている。上回った要因は、クリクラ(※)の受入れ期間が 3 ヶ月から 6 ヶ月に伸びたことが一番の要因ではあるが、多くの学生を受け入れ医学生の育成に貢献した。(※クリニカルクラークシップ：学生も医療チームの一員として実際に診療に参加し、より実践的な臨床能力を身につける臨床参加型実習)

医 師 (学生)	平成 27 年度 実績値	平成 28 年度 目標値	平成 28 年度 実績値	目標値差
				前年度差
医学生実習受入数	16	26	32	6
				16

②研修医育成

平成 28 年度は基幹型・協力型どちらも受入の目標値をクリアしている。平成 28 年度は、マッチング（平成 29 年度受入）への対応のため、研修プログラム、処遇の改善（公宅）などに積極的に取り組むこともできた。

医 師	平成 27 年度 実績値	平成 28 年度 目標値	平成 28 年度 実績値	目標値差
				前年度差
基幹型臨床研修受入数	0	5	5	0
				5
協力型臨床研修受入数	7	10	14	4
				7

③専門医育成

専門医の研修施設として、項目数の現状を維持できている。

医 師	平成 27 年度 実績値	平成 28 年度 目標値	平成 28 年度 実績値	目標値差
				前年度差
専門研修プログラム研修施設認定取得数（項目）	15	15	15	0
				0

④医師を対象とした研修会の開催

定期的に研修会を実施し、目標値、前年実績を上回ることができ、地域の医療の質の向上に貢献できた。また、地域の医師と当院医師の交流を図ることで、地域連携の強化につなげることができた。

医 師		平成 27 年度 実績値	平成 28 年度 目標値	平成 28 年度 実績値	目標値差
					前年度差
各種研修会参加者（人）	地 域	27	50	70	20
					43
	院 内	51	50	91	41
					40

(2) 看護師・薬剤師をはじめとする医療従事者の育成の充実

全体的な実績は、前年度比で上回っている項目が多く、一部目標値に届いていない点もあるが概ね実施できている。

①医療従事者の育成

職員の能力の向上として、学会等の認定資格者の増加は必須であるが、平成 28 年度は一部目標値を下回っているものの全体として、専門資格職員が増加している。

専門資格取得者	平成 27 年度 実績値	平成 28 年度 目標値	平成 28 年度 実績値	目標値差
				前年度差
【看護師】 認定看護管理者 (人)	2	2	1	-1
				-1
【看護師】 専門・認定看護師 (人)	13	14	13	-1
				0
【薬剤師】 専門・認定薬剤師 (人)	4	4	7	3
				3
【その他の医療技術者】 専門・認定医療技術者 (人)	63	48	60	12
				-3

研修受入・派遣	平成 27 年度 実績値	平成 28 年度 目標値	平成 28 年度 実績値	目標値差
				前年度差
長崎県看護キャリア支援センター講師派遣 (人)	4	3	6	3
				2
地域病院 新人看護職員臨床研修 (人)	3	18	0	-18
				-3

②学生実習の充実

県キャリアセンターが出来たことや市立看護専門学校が独自で研修先、講師を手配するようになったため、当院への看護師の実習や講師派遣は減少傾向になってきている。この部分は当院の努力により増加する数値ではないため、当院として、要請を受けている講師派遣数は全て対応をとっており、学生の教育には貢献できている。

受入実績 (延人数)	平成 27 年度 実績値	平成 28 年度 目標値	平成 28 年度 実績値	目標値差
				前年度差
看護学生 (人)	274	270	259	-11
				-15
薬学生 (人)	0	4	15	11
				15
医療技術系学生 (人)	35	35	41	6
				6
医療事務系学生 (人)	2	2	9	7
				7

市立看護専門学校講師派遣	平成 27 年度 実績値	平成 28 年度 目標値	平成 28 年度 実績値	目標値差
				前年度差
医師 (人)	34	33	38	5
				4
看護師 (人)	27	17	13	-4
				-14
薬剤師 (人)	1	1	1	0
				0
その他の医療技術者 (人)	6	5	4	-1
				-2

③中学・高校生向けの体験・見学の充実

高校生や中学生に向けた見学プログラムの構築であるが、平成 28 年度は、佐世保市医師会と協力し、高校生ボランティアとして 6 名の学生の受入を実施できた。

4 医学研究の推進

治験・臨床研究は、実績が製薬会社等によって左右されるところがあるが、今年度は概ね目標値に近い数値もしくはそれ以上の数値を維持できた。

医学研究関係	平成 27 年度 実績値	平成 28 年度 目標値	平成 28 年度 実績値	目標値差
				前年度差
治験新規契約件数(件)	3	4	8	4
				5
臨床研究審査件数(件)	67	50	47	-3
				-20

5 医療の質の向上

(1) 施設、設備の充実

内視鏡センターを平成 29 年 2 月に竣工し、同年 4 月に運用開始するとともに、電子内視鏡システム（108,000 千円）をはじめとする多彩な先進的機能を備えた医療機器を導入し、正確かつ安全に、より多くの患者へ質の高い医療の提供ができるように診療環境を整えた。

(2) 医療従事者の確保

平成 28 年度は通常定期的に行っている採用試験に加え、随時試験（応募状況に応じて実施）を看護師、薬剤師、言語聴覚士において実施し、早期の雇用に取り組んだ。

医師については目標値を下回っているが、前年度を超える人員配置をすることができた。

看護師については新規採用できているものの中途退職者もあり、目標値に届いていない状況であるが、熊本地震災害に伴う職員派遣に協力する形で熊本市民病院から現役の看護師 10 名、助産師 3 名、臨床工学技士 2 名を研修として受入れ、各部署配置することができた。

また、働きやすい病院づくりの一環として、子育て中の職員向けに院内託児所を敷地内に新設整備することができた。

結果としては、人材の確保で若干目標を下回っているものの、ワークライフバランスに向けた環境整備や採用活動状況を勘案して、全体的な取り組みは概ね計画どおり進んでいる。

人員数	平成 27 年度 実績値	平成 28 年度 目標値	平成 28 年度 実績値	目標値差
				前年度差
医師（人）	92	98	95	-3
				3
看護師（人）	530	527	515	-12
				-15
薬剤師（人）	16	20	18	-2
				2
医療技術職（人）	75	79	77	-2
				2
事務職等（人）	52	50	51	1
				-1

(3) 患者サービスの向上

患者さんが安心して医療を受けることが出来るよう、医療相談の充実を図ることができ、患者さんからの要望の多かったクレジットカードでの医療費の支払制度導入に取り組んだ。目標値に届いていない項目があるものの全体としては概ね計画を達成できていた。

①患者中心の医療の提供

各診療科・各部署の代表者による病院運営会議を月 1 回実施し、病院の経営状況の報告や課題について共通認識をもち健全な病院運営に取り組んでいる。

また、一人一人の患者が抱える病気だけでなく経済的、家族的な問題などあらゆる課題や想いを考慮した上で、カンファレンスなどで多職種の職員が共有した医療情報をもとに患者ごとの治療の方針を立て、医療チームでその情報に基づいて医療を提供することを実践できた。

②快適性の向上

外来患者、入院患者に対し平成 28 年 10 月 3 日～7 日にかけて患者満足度調査を実施した。数値的な部分は、目標値より若干低いものの、病養環境改善ため、個室の改装を決定したことなど取り組むことができた。

③患者からの相談に対する対応の充実

総合相談窓口担当看護師、がん相談員、医療ソーシャルワーカーを配置し、医療相談・福祉相談・退院調整を行った。専門知識を持ったスタッフが適切に対応することで、様々な不安や問題を抱えた患者が安心して医療サービスを受け、退院後も安心して在宅生活が送れるよう支援を行った。相談支援件数も年々増加し、目標値より大幅に上回っている。相談件数 6,297 件のうち、医療ソーシャルワーカーによる退院支援は 2,864 件（前年度比 30% 増）、苦情件数 126 件（前年度比 36% 減）。

④職員の待遇改善

待遇の向上に関しては、今年度も全職員を対象とした研修会を院外より講師を招き実施できており、研修への参加率は目標値に達していないものの、前年と比べると参加率が上がっている。研修内容に対する満足度も目標値を上回っている。

⑤患者の利便性向上

年度当初においては、平日窓口による取扱い及び自動精算機による取扱い開始を目標としていたが、救命救急センター窓口における取扱いを平成 28 年度中に実現できた。クレジットカード収納の対応は 24 時間 365 日となり、患者さんの医療費支払いに関する利便性、特に高額な医療費を支払われる患者さん、現金の持ち合わせが不足しやすい救急の患者さんの利便性が格段に向上した。

- 平成 28 年 8 月より窓口にてクレジットカード収納開始（取扱い時間は土日祝日を除く平日 8:30～17:15）
- 平成 28 年 11 月より 自動精算機によるクレジットカード収納開始（取扱い時間は土日祝日を除く平日 9:00～16:00）、平成 29 年 2 月より救命救急センター受付にてクレジットカード対応開始（取扱い時間は平日 17:15～翌日 8:30、及び土日祝日の終日）

患者サービス関係		平成 27 年度 実績値	平成 28 年度 目標値	平成 28 年度 実績値	目標値差 前年度差
患者 満足度	5 段階評価（平均値）	4.6/5.0	4.8/5.0	4.2/5.0	-0.6
	満足した人の割合(%)	90.0	93.0	88.7	-4.3
	不満な人の割合(%)	1.0	2.0	2.4	-1.3
患者相談件数（がん相談除く）（件）		6,031	4,700	6,297	0.4
					1.4
					1,597
					266
職員 接遇研修	参加率(%)	29.0	40.0	30.6	-9.4
	満足した人の割合(%)	77.1	75.0	86.4	1.6
					11.4
					9.3

(4) 安全性の高い信頼される医療

医療安全、院内感染対策研修会受講率は、ともに目標値の 8 割を達成しており、年々受講率はアップしている。法人 1 年目として、必要な規程の策定と関係法令にもとづき、業務の見直しを実施し、改善すべき点は早急に改善できた。

①医療安全対策の充実

医療安全研修会の 1 回目の受講率は 83%、2 回目の受講率は 88%と受講率はアップしている。受講率アップのためにセーフマスター上のオンデマンド受講ができない環境の部署には、DVD を作成し受講を促したり、未受講者に対して受講の周知を再三図った。

②院内感染対策の充実

院内感染対策講習会受講率は目標値 90%に対して 85.5%であったが、27 年度より上昇傾向にあり、今後も受講率アップの工夫に努める。

インフルエンザ対策に関して 27 年度と比較して罹患職員の報告数は 51 名から 39 名と減少した。入院患者では同一時期の発生数は 27 年度 5 名から 28 年度 3 名と減少し大きなアウトブレイクには至らなかった。新規 MRSA 年間発生件数は 27 年度 63 件から 28 年度 50 件と減少傾向を維持している。

結核について 27 年度に他疾患で入院中の患者からの発症があったので、28 年度は職員の教育と多職種で連携をとり画像システムを活用し、検査結果の共有とフォローを行うことで、アウトブレイクはおこらなかった

③法令の遵守と情報公開

診療録（カルテ）等の個人情報の保護並びに情報開示については適切に行うことができた。医療法に基づく手続きに不備があるものがあったが、早急に改善を行うなど、関係法令の遵守を心掛け取組みができた。今年度は、内視鏡センターの開設などに向けた許可申請があったが、それらを速やかに行うことが出来た。

医療安全・感染対策	平成 27 年度 実績値	平成 28 年度 目標値	平成 28 年度 実績値	目標値差
				前年度差
医療安全研修会受講率(%)	78.9	90	85.5	-4.5
				6.6
院内感染対策研修会受講率(%)	78.9	90	85.5	-4.5
				6.6

(5) 臨床指標の充実及び開示

診療実績や臨床指標について、ホームページにより情報提供を行うことができた。

第 3 業務運営の改善及び効率化に関する目標を達成するためとるべき措置

1 法人としての管理運営体制の確立

(1) 適正な法人管理体制の構築

平成 28 年度は、計画的な理事会開催、年度途中での目標の振り返りを行うなど目標達成へむけての意識の向上に取り組むことができた。監事の業務監査において、組織体制の目的、役割の確認を行った。

(2) 効率的な病院運営

経営戦略会議、経営会議を経て理事会と法人としての重要事項の決定は、円滑に進めることができた法人一年目であった。リハビリの人員確保や機器購入（リニアック）など法人の意思決定機関において予算等迅速に決定し、効率的に運用できた。

施設設備維持管理業務の複数年契約や材料費削減のため新たな価格交渉の手法を取り入れた。また、医療機器保険を導入し、（医療機器保守点検）委託料の縮減を図った。

2 人材の確保と育成

託児所の開設など職員が意欲的に働ける環境づくりへの取り組みができた。

第 4 財務内容の改善に関する目標を達成するためとるべき措置

1 経営基盤の確立

経常収支比率及び医業収支比率とともに、目標を達成することができた。毎週開催する経営会議にて病院運営に対する戦略・目標について検討し、毎月開催する管理者会議や運営会議にて各部門・診療科、各委員会へ報告するとともに、毎月の経営指標の現状の説明等を行い、健全な病院運営に取り組んだ。

収支比率	平成 27 年度 実績値	平成 28 年度 目標値	平成 28 年度 実績値	目標値差
				前年度差
経常収支比率(%)	99.2	102.2 以上	104.4	2.2
				5.2
医業収支比率(%)	98.4	95.1 以上	98.2	3.1
				-0.2

2 収益と費用の適正化

(1) 収益の適正化

新たな施設基準の取得（主に急性期看護補助体制加算、脳血管疾患等リハビリテーション料、強度変調放射線治療）、米軍診療単価の増加や手術件数の増加等により、入院・外来収益ともに目標を達成した。地域の医療機関との連携により、疾病ごとの入院期間調整を図ることで、診療単価を伸ばすことができた。

患者数等	平成 27 年度 実績値	平成 28 年度 目標値	平成 28 年度 実績値	目標値差
				前年度差
(入院) 年間患者数 (人)	182,061	186,800	184,281	-2,519
				2,220
(入院) 新規年間患者数 (人)	13,102	13,100	13,090	-10
				-12
(入院) 一日平均患者数 (人)	497	512	505	-7
				8
(外来) 年間患者数 (人)	209,006	207,800	207,517	-283
				-1,489
(外来) 一日平均患者数 (人)	860	852	854	2
				-6
(入院) 診療単価 (円)	60,706	60,000	61,882	1,882
				1,176
(外来) 診療単価 (円)	17,023	16,600	19,066	2,466
				2,043
病床利用率(%)	81.4	83.8	82.6	-1.2
				1.2
平均在院日数(日) ※診療所を除く	12.8	13.0	13.0	0
				0.2

(2) 費用の適正化

目標を達成できなかった項目もあったが、改善へ向けた基盤整備に着手できた。

① 適正な人件費比率の確保

運営上必要な人員の確保に努め、人件費比率の適正化に取り組み、目標を達成することができた。看護師等については、採用予定見込者を下回ったため、継続して確保対策に取り組む。

人件費比率	平成 27 年度 実績値	平成 28 年度 目標値	平成 28 年度 実績値	目標値差
				前年度差
人件費比率(%)	52.3	54.0 以下	50.0	-4.0
				-2.3

② 物件費の節減

医薬品、医療材料等の物品調達にかかる価格交渉を徹底するとともに、契約方法や在庫管理の方法を見直し、経費削減に取り組んだが、抗がん剤治療に用いる薬品費の増加、手術件数の増加や医療技術の向上などに伴う診療材料費の増加により、薬品費比率及び診療材料費比率ともに目標を達成することができなかった。後発品医薬品の使用については、積極的に取り組み、使用率目標を達成することができた。

物件費比率	平成 27 年度	平成 28 年度	平成 28 年度	目標値差
	実績値	目標値	実績値	前年度差
薬品費比率(%)	16.3	15.5 以下	17.5	2.0
				1.2
診療材料費比率(%)	13.9	13.0 以下	14.0	1.0
				0.1

後発医薬品使用率	平成 27 年度	平成 28 年度	平成 28 年度	目標値差
	実績値	目標値	実績値	前年度差
後発医薬品使用率(%)	70.45	70.00	79.31	9.31
				8.86

第 5 その他業務運営に関する重要事項

1 救急ワークステーションの充実

救命救急士の教育研修の充実のため、平成 28 年度は 12 名の研修・実習生を受け入れることが出来た。救命救急士教育に対する担当職員を配置し教育の環境づくりも整備されたことにより、救急隊員の技術の向上に貢献できている。

2 ボランティア制度の活用

年度計画に従い、ボランティア受入れのための内規や活動内容等を記載したしおりの作成を行った。また、これらは院内のみならず、関係機関等にも配布、設置することにより、当院のボランティア活動についての周知を図ることができた。受入れ体制は一定整備でき、6 名のボランティアを確保できた。

3 分かりやすい情報発信

ホームページの活用、健康・保健知識の向上を目的とした地域住民向けの講演会の実施、広報誌の発行により、情報を発信することができた。市民向け研修会に関しては、回数・参加者数の目標を達成できなかったが、平均 80 名もの参加をいただき、地域住民の健康・保健知識の向上の実現ができている。ホームページも今年度よりリニューアルし、内容の充実ができた。広報誌も年 4 回発行でき、患者さんが手に取りやすい場所へ配置を見直し、多くの患者等へ配布することが出来た。病院パンフレットの作成や内視鏡センター案内パンフレットも作成し、患者等へ病院情報を発信することができた。

市民向け研修会等	H27 年実績	H28 目標	H28 実績	目標値差
				前年度差
健康教室 (回数 (回) ・人数 (人))	(11)1,239	(11)1,100	(10) 787	(-1)-313
				(-1)-452
市民公開講座 (回数 (回) ・人数 (人))	(1)71	(1)100	(1) 88	(0)-12
				(0)17

第6 予算（人件費見積もりを含む。）、収支計画及び資金計画

1 予算

（単位：百万円）

区 分	目標値	実績値	目標値差
収入			
営業収益	15,775	16,488	713
医業収益	14,869	15,577	708
運営費負担金等収益	768	769	1
補助金等収益	43	21	▲22
その他の収益	95	121	26
営業外収益	65	99	34
運営費負担金等収益	25	24	▲1
その他の収益	40	75	35
臨時利益	1,050	882	▲168
資本収入	815	14	▲801
長期借入金	807	0	▲807
補助金等収入	8	14	6
計	17,705	17,483	▲222
支出			
営業費用	14,918	15,254	336
医業費用	14,561	14,929	368
給与費	7,749	7,467	▲282
材料費	4,746	5,452	706
経費	1,972	1,928	▲44
その他の費用	94	82	▲12
一般管理費	357	325	▲32
給与費	271	274	3
経費	84	50	▲34
その他の費用	2	1	▲1
営業外費用	65	82	17
支払利息	65	61	▲4
その他の費用		21	21
臨時損失	1	0	▲1
資本支出	2,957	2,588	▲369
建設改良費	1,678	1,309	▲369
償還金	1,279	1,279	0
計	17,941	17,924	▲17

※目標値に関する事項

（注）期間中の物価の変動等は考慮していません。

【人件費の見積】平成28年度 総額8,020百万円

なお、当該金額は、法人の役員に係る報酬、職員の給料、諸手当、法定福利費および退職手当の額に相当するものです。

【運営費負担金の算定のルール等】

運営費負担金については、毎年度総務省が発出する「地方公営企業繰出金について」に準じた考え方によります。また、建設改良費および長期借入金等元利償還金に充当される運営費負担金については、経常費助成のための運営費負担金とします。

2 収支計画

(単位：百万円)

区 分	目標値	実績値	目標値差
収益の部			
営業収益	16,898	17,592	694
医業収益	14,853	15,560	707
運営費負担金等収益	768	769	1
補助金等収益	43	21	▲22
資産見返補助金等戻入	46	61	15
資産見返物品受贈額戻入	1,100	1,069	▲31
その他の収益	88	112	24
営業外収益	63	96	33
運営費負担金等収益	25	24	▲1
その他の収益	38	72	34
臨時利益	1,050	888	▲162
計	18,011	18,576	565
費用の部			
営業費用	16,031	16,229	198
医業費用	15,621	15,846	225
給与費	7,746	7,463	▲283
材料費	4,394	5,048	654
経 費	1,850	1,788	▲62
減価償却費	1,540	1,466	▲74
その他の費用	91	81	▲10
一般管理費	410	383	▲27
給与費	271	274	3
経 費	78	47	▲31
減価償却費	59	61	2
その他の費用	2	1	▲1
営業外費用	560	708	148
支払利息	65	61	▲4
雑損失	495	647	152
臨時損失	1,050	889	▲161
計	17,641	17,826	185
純利益	370	750	380

3 資金計画

(単位：百万円)

区 分	目標値	実績値	目標値差
資金収入	17,705	17,120	▲585
業務活動による収入	16,890	17,113	223
診療業務による収入	14,869	15,414	545
運営費負担金等による収入	793	803	10
補助金等による収入	43	14	▲29
その他の収入	1,185	882	▲303
投資活動による収入	8	7	▲1
補助金等による収入	8	7	▲1
財務活動による収入	807	0	▲807
長期借入金による収入	807	0	▲807
設立団体からの繰越金	3,904	4,114	210
資金支出	17,941	17,291	▲650
業務活動による支出	14,984	14,887	▲97
給与費支出	8,020	7,451	▲569
材料費支出	4,746	4,989	243
その他の支出	2,218	2,447	229
投資活動による支出	1,678	1,125	▲553
有形固定資産取得による支出	1,678	1,125	▲553
財務活動による支出	1,279	1,279	0
移行前地方債償還債務の償還による支出	1,279	1,279	0
次期中期目標の期間への繰越金	3,668	3,943	275

第7 短期借入金の限度額

短期借入金の実績なし

第8 出資等に係る不要財産又は出資等に係る不要財産となることが見込まれる財産がある場合には、当該財産の処分に関する計画

実績なし

第9 重要な財産を譲渡し又は担保に供する計画

実績なし

第10 剰余金の使途

処理の実績なし。平成28年度に生じた剰余金は、平成29年度以降、病院施設の整備、医療機器の導入、教育・研修体制の充実、組織運営の向上策等に充てる予定である。

第 11 その他佐世保市地方独立行政法人法の施行に関する規則で定める事項

1 人事に関する計画

平成 28 年度は新しい人事評価制度は導入をすることができ、事務部門のプロパー職員の採用は 7 名の職員を採用できた。

2 施設及び設備に関する計画

施設及び設備に関する計画については、入札により事業費を抑制し、計画どおりに実施した。

(単位：億円)

施設及び設備の内容	実績	財源
医療機器等資産の購入	4.8	自己資金
内視鏡センター建設	6.5	佐世保市長期借入金 5.8 (充当予定) ; 自己資金 0.7

3 法第 40 条 4 項の規定により業務の財源に充てることができる積立金の処分に関する計画

実績なし